

日本農業新聞 「 ことわざから読み解く天気予報 」

「 楽しめる平成版天気予報虎の巻 」 16.1.12

1994年8月に気象業務法が改正され、天気予報が自由化された。2002年8月には、情報公開の大きな流れを受け、気象庁がインターネットで天気予報サービスに参入。結果、気象業界では付加価値競争が進行中。従来考えられなかったユニークな手法や天気予報商品が、次々と生まれている。

本書は自由化の恩恵をたっぷりと得た、関西の人気気象予報士が、現場の経験を踏まえて才能を開花させた実務の傑作である。

ことわざと天気予報のバイブル、大後博士「天気予知ことわざ辞典」等の博覧強記の書にはない分野を開拓した。

構成と表現に大きな創意工夫があり、総体的に読んで欲しいという明確な意思がある。その点で、辞典や解説書ではなく、読み得の飽きない一般書である。

1つのキーワードとして、多くの人々に関心の高い「温暖化」で、環境問題にも配慮している。現代社会の環境変化がもたらしつつある気象現象を、気鋭のお天気大好き人間が千変万化する海、山、都会で楽しみつつ、読み解こうとしている前向きな姿勢が感じ取れる。

第一章、身の回りから見てみようでは生気象を取り上げ、第二章は、ツバメ、カエルやセミなど生物にまつわることわざを。第三章、「山には山ほどことわざが」は、思わず口ずさみたくなるタイトルだ。

豊富な魚つりや予報の実体験を生かし、趣味の現場や暮らしに役立つ事例と引用を随所に具体的に示す、現在進行形の天気予報への興味付と話しの種がいっぱい。楽しめる平成版天気予報の虎の巻。

農家に関心の高い長期予報の章がないのが、少々さみしいが、全編新しい視点も身につく好著である。

(気象情報システム株式会社 高津敏)